



横浜市立若葉台小学校

令和8年度学校説明会

校長 池田 千穂

子どもを真ん中において、保護者の方、地域、学校がパートナーとして子どもを育ていけるように、「安心」な学校生活を基盤に「つながり」を大切に教育活動に取り組んでいきます。そして子ども達が自信をもって主体的に行動し、安心して生活できる学校づくりを進めています

自分も友だちも大好きなあたたかい子

自分を大切に、他者を思いやり、地域を愛する心を育てます。

若葉台のアドバンテージは「地域力」です。『街づくりは学校づくり、学校づくりは街づくり』がこの若葉台の街のスローガンです。地域の協力体制のもと、地域の方々と連携して学ぶ機会がたくさんあります。たてわり活動「わかばの時間」や保育園、わかば学園、若葉台中、地域との交流活動にも積極的に取り組んでいます。交流活動はいろいろな人達がいることの当たり前を学びます。それは人権感覚を育てていきます。また年上の子は年下の子と関わる時、相手の気持ちを汲もうと努力します。そして、それは「思いやり」の心を育て、自尊感情も高めます。先輩や地域の方と関わる時、目上の方を敬い、感謝する気持ちも育まれます。また令和6年度より若葉台特別支援学校、若葉台中学校と一緒に文部科学省の推進校指定を受け、インクルーシブ教育を進めています。3年生はわかば学園との授業が3年目になります。子ども達同士はずいぶん仲良しになりました。一緒に授業することを当たり前を受け止め、自然体でコミュニケーションをとっている子ども達の姿に私たちが学ばされます。子ども達は授業を通して、「共感力」を育てています。(『note』 <https://wakabadai-es.note.jp> や youtube で活動が紹介されています。)



クラスや学年の枠を超えた温かい人間関係が築かれる中で、子ども達は自己肯定感や自己有用感を高めていくことができると思います。「自分は大切にしてもらっている」と子ども自身が実感することは、自分を大切にすることを育みます。私たち教職員は子ども達一人一人に寄り添った対応を心がけます。

自分の心と同様に「自分の体」も大切にしてほしいです。本校では休み時間には運動への関心を高める取組をしています。ロング昼休みには楽しみながら体力作りのできるキッズスポーツを展開しています。新築の体育館は冷暖房完備です。水泳学習は地域のスイミングクラブ「オアフ」にて天候に左右されずに行うことができます。整った運動環境のもと、安全に授業の充実を図ってまいります。

自分から進んで学び続ける子



協働的な学びを通して、主体的な学びの態度を育てます。

若葉台小学校の子ども達は落ち着いた態度で授業に臨んでいます。さらに学校目標である「意欲的な学びの芽」を育てるために、子ども達の『主体的に学ぶ姿』を目指したいと考えています。主体的な姿を授業の中でしっかりと見取れるように授業研究を進めてまいります。本校では全教員が授業を公開して見合い、お互いに研鑽しています。誰もが安心して学べるインクルーシブ教育と探求の充実とその基盤となる教育DXの推進を引き続き両輪に、主体的な学びを柱に授業改善を行ってまいります。外部講師にも教授いただき、さらに教職員も研修に努めます。また、教科分担制、専科制、チームティーチング、取り出し個別指導など学習の形態も工夫しています。今年度は1年生が1クラスのため、副担任を置き、TT や少人数など授業形態を工夫します。6年生は、学級担任を特に決めない学年担任制を実施し、3人の教諭で、学年運営をしていきます。主任は昨年度までのチーム学年推進として、マネージメントしていきます。

今年度はタブレット端末の家庭への持ち帰りを昨年度より学年を増やして実施します。使用のきまりなどはご家庭でも確認してご協力いただきたいと思います。



チーム若葉台小学校

子ども達が安心して学校生活を送れるように全職員で努めます。

一人ひとりの子どもに最適な学びの場を整えるために、本校は、特別支援に中心となって取り組む TSC(特別支援チーム)を組織に位置付けています。なかなか教室に入れない子ども、学習を丁寧に指導する必要がある子ども(パワーアップ教室)、クールダウンやアイドリングが必要な子ども、日本語が苦手なフォローが必要な子ども(国際教室)それぞれのニーズに応じた対応をしています。主にパワーアップルームがその場所として役割を持っていますが、他にも SSR(スペシャルサポートルーム)等子どもが安心して過ごせる場所を考えて学びの場としています。学習も、クラスルームやどこでもスタディを活用し、教室外で授業を受けることも行っています。

様々な学習形態での授業は学力の定着や向上だけが目的ではありません。どの学年も担任以外の教師が指導に入ることによって多くの職員が目で見守り支援できます。本校では全教職員で子どもの情報を共有しています。一人ひとりの子どもの理解を深め、対応や指導法について相談・研修を行い、共通理解を図る時間を大切にしています。パワーアップルームも多くの職員が指導に入っています。

いじめ等の問題の早期発見、未然防止にも多くの大人の目が必要であると考えています。いじめ等の問題は児童支援専任を中心に教職員で共有し、解決に向けて、対応は迅速に組織で行います。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、外部関係諸機関とも連携して対応を協議することも積極的に行っています。また計画的にアンケートや子ども面談、アセスメントを行い子ども達の実態把握に努めています。(いじめ防止対策基本方針(HP)を概要にまとめました。)

「チーム若葉台小」として、引き続き子ども達が安心して学校生活を送れるように全職員で努めてまいります。